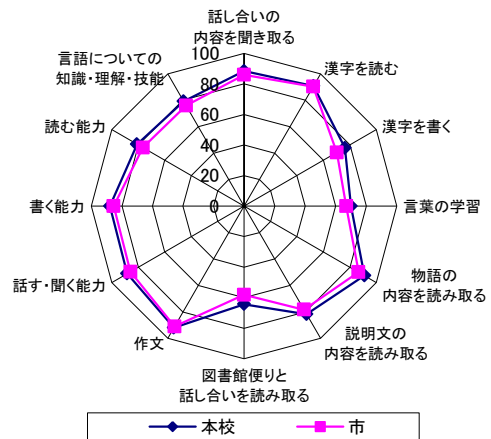


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	88.5	85.9
	漢字を読む	90.8	90.4
	漢字を書く	76.3	70.1
	言葉の学習	70.0	66.9
	物語の内容を読み取る	91.0	86.5
	説明文の内容を読み取る	81.8	78.4
	図書館便りと話し合いを読み取る	64.3	58.1
	作文	92.0	91.0
観点別	話す・聞く能力	88.5	85.9
	書く能力	87.8	85.4
	読む能力	80.9	76.6
	言語についての知識・理解・技能	79.2	76.0



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・平均正答率は市の平均正答率を上回っているが、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ることは、市の平均をやや下回る。	・相手の話に注意して耳を傾け、集中して聞き取る活動を国語の時間ばかりではなく会話科や日常のいろいろな場面で意識して取り入れていきたい。また、自分の考えを持ち、それを相手に言葉で伝える力を伸ばしていく。
漢字	・全体的に市平均正答率を上回っている。漢字の読みの方が書きよりも正答率が高い。漢字の書きの設問の中で市の平均よりわずかに低いものが1問のみみられた。	・新出漢字はもとより、既習の漢字についても繰り返し復習させ定着を図っていききたい。また、あらかじめ出題内容を知らせながら繰り返し計画的に漢字テストを実施することによって、学習意欲を高め達成感を味わえるような方法を工夫する。
言葉の学習	・全体的に市の平均正答率を上回っている。三字熟語の構成については市の平均を12ポイント上回るなど、十分理解がなされている。また、尊敬語や謙譲語の使い方についても理解がなされている。俳句の季語を手掛かりに季節を答える問題では、市の平均をわずかに下回った。	・日常生活の中で意味の分からない言葉があった時は辞書を引いたり身近な人に尋ねたりするなどして知識を広げさせていきたい。また、同音異字や同訓異字、慣用句やことわざなどにも触れる機会を増やしたい。敬語についても折に触れ場に応じた使い方を示しながら、身に付くよう繰り返し指導していく。
物語の内容を読み取る	・全体的に市の平均正答率を上回っている。文中に書かれている語句から登場人物の心情を読み取る問題では、95%の正答率と市の平均を8.1ポイント上回る高い正答率を示す。しかし、叙述をもとに登場人物の心情を想像する問題では正答率が市の平均をわずかに下回った。	・文学的文章を教材にした授業では、登場人物の心情に寄り添い、情景描写に気を付けながら相続力をはたらかせて読む学習をしていきたい。また、朝の読書や読み聞かせなども引き続き力を入れて読書力をつけるために支援をしていく。
説明文の内容を読み取る	・すべての設問で正答率は市の平均を上回っており、文と文のつながりを考えたり、段落のまとまりを考えながら読み取ることができる。また、文章の内容を読み取り他の例に当てはめて考えなど、学習したことを活用する力がついている。	・文章構成図などを使って、段落相互の関係をとらえる学習を今後も充実させることにより、要旨をとらえたり筆者の主張を読み取ったりする力を高めていく。さらに、指示語や接続詞の働きにも注目させ、文章の構成や展開を正確にとらえられるよう指導する。
図書館便りと話し合いを読み取る	・全ての項目で市の平均を上回っており、資料を正しく読み取り、適切にまとめる力がついている。また、その資料をもとに行った話し合いで出された意見を正しく読み取ることができている。	・資料を多角的に読み取る活動を数多く取り入れる。その際、児童同士が意見交換をする機会を設定することにより自分とは違った様々なとらえ方に気付かせる。また、資料を読み取りまとめる力を身に付けさせるため、国語の時間だけではなく、理科や社会などでも、資料から読み取ったことを音声化や文字化する活動を充実させる。
作文	・全ての項目で市の平均を上回っており、基礎的な作文の力が定着している。指定された長さで文章を書くこと、二段落構成で書くこと、自分の意見とその理由を区別して書くことなど、課題の条件を満たして文章を書くことができていた。	・テーマに沿って文章を書く機会をなるべく多く与えるように工夫し、目的に応じて適切な文章を書く力を高めさせる。文のねじれに気がつき、自ら修正できるような言語感覚を身に付けさせるため、誤った表現の仕方を直す練習問題などにも取り組ませる。また、国語の時間だけではなく、自主学習、その他の場面でも自分の思いや考えを表現する機会を設けていく。